



法政大学
HOSEI University

小金井キャンパス教職課程センター通信

「こがねい」

西館 B1 kkck@ml.hosei.ac.jp

NO.11 2025/11/13



ノーベル賞日本人 2 人決定！

今年の流行語、今年の 10 大ニュースなどのワードが気になり始める頃となりました。

今年は、各界で、日本人の活躍が評価された年ではないでしょうか。

近年、文化の面ではアニメ、ゲーム機、音楽、衣装デザイン、映画と確実な評価が継続されていますが、今年のスポーツでの活躍はメジャーリーグ・サッカー・バレーボール等と目を見張るものがありました。

そして、忘れてはならない 2 人がいます。今年のノーベル賞の自然科学部門で、日本人は生理学・医学賞に大阪大の坂口志文特別栄誉教授（74）、化学賞に京都大の北川進特別教授（74）です。同じ年に複数が受賞する快挙は平成 27 年以来 10 年ぶり、日本中が驚き称賛されました。

坂口氏は、共同研究者 米国のメアリー・ブランコウ氏、米国のフレッド・ラムズデル

研究テーマ「末梢性免疫寛容に関する発見」

具体的には、免疫反応を抑えるブレーキ役となる「制御性 T 細胞」を発見したことが評価。この細胞は免疫システムが自分の体を攻撃しないようバランスを保つ重要な役割を担っている。

記者会見 「がんというのは全然怖い病気じゃなくて治せるものだ、という時代に必ずなると思っている」

北川氏は、共同研究者オーストラリアのリチャード・ロブソン氏、米国のオマー・ヤギー氏

研究テーマ「金属有機構造体(MOF)の開発」

MOF は「多孔性配位高分子」とも呼ばれ、金属イオンと有機分子を組み合わせで作る、ナノメートルサイズの微小な穴が無数に開いた材料。1 グラムあたりの表面積はサッカーコートに匹敵するほど大きく、気体を効率的に吸着・貯蔵できる。

記者会見 「貯蔵・分離・変換ができる材料として世に出て行ってほしい」

坂口氏の「制御性 T 細胞」発見が 2007 年、北川氏の多孔性金属錯体の最初の論文発表が 2009 年です。これらは、今の最先端の成果ではなく、30 年近く前の成果ということです。

彼らの言葉からわかるように、近年のノーベル賞選考は、実社会への貢献を重視する傾向が強くなります。研究の価値が広く認められ、実際に使われて社会を変革し受賞に至るまでには、例外はあるが非常に長い時間がかかっています。これは、科学のもたらす功罪を踏まえての歴史からの教えなのかもしれません。実社会への貢献が形となるまでは、より多くの人たちの苦勞と挫折、そして、英知や技術が、時とともに結実したともいえるでしょう。この 2 人の受賞は、日本の科学力の評価であり、技術力の成果なのです。

一方で、科学の発展のもたらす罪は利用する人間の価値観や利益をもたらす正義によって引き起こされた歴史もあり現実もあります。

次世代も、日本にこだわらず、世界の人々と協力し、着実に世界の人々を救い、社会に貢献できるものを発見・開発・作製・生産し評価されて行って欲しいと思います。

2025 教員採用試験秋募集

今年度の教員採用試験は、川崎市、和歌山県、大分県などで、秋募集が行われています。試験は11月が多いようです。選考の結果合格であれば、正規教員としての採用となります。ただし、地自体、年度によって募集校種、教科・科目は変動があります。知っておいてください。

2026 教員採用試験日程について

早くも、自治体によっては、来年度の教員採用試験の一次試験日程を発表しています。確認してください。倍率の高い自治体を受験する場合、他の都道府県を併願する受験生も増えています。本学でも、併願受験をしている学生はいます。

日程(2026年)	自治体				
5月10日(日)	山口県	長崎県			
6月13日(土)	岐阜県	愛知県	名古屋市	三重県	
6月14日(日)	札幌市	鹿児島県			
7月4日(土)	岡山県	岡山市			
7月5日(日)	埼玉県	さいたま市	東京都	神奈川県	横浜市
7月11日(土)	青森県	岩手県	宮城県		
7月12日(日)	福岡県	福岡市	北九州市		

イベントについて 再掲

☆教採合格者体験発表会 11月29日(土) 3年生は理数合同 4年生は発表者のみ参加

☆教採説明会&卒業生を囲む会 12月6日(土) 3年生は理数合同 4年生は休講

☆アナウンサー大橋照子先生による話し方講座 2月 対象 2年生 3年生

「話し上手は聴き上手」。教員に限らずどの職種でも「聞く」が大切です。傾聴・受容・共感「聞く」の3大要素です。この「聞く」から得る情報で、話すことが、相手の心を開き惹きつけるのです。

小論文指導について

2027年度(2026年実施)教員採用試験を受験希望している皆さんへ、10月29日に、小論文指導についてのメールを送りました。

添付資料は「採用選考論文の構成について」と「論作文対策講座 基礎編」です。

「採用選考論文の構成について」では、志望されている自治体の2024年のテーマ、字数、時間も添えています。10月は希望自治体の教育ビジョン・教育振興計画・令和の日本型学校教育などについて知ることを宿題としていました。

今回は、採用選考論文の構成についての自治体のテーマから、自分の志望する自治体テーマを選び、「序論」、「結論」と「締め」を目安と設定した文字数で、直筆で書いてみます。

誤字・脱字のチェックは肝心です。最初なので、時間は気にせずに、書いてみます。

このテーマの根拠を添えた「序論」の設定が、「本論」の事例を挙げた具体策・期待する生徒の変容となり、テーマに沿いながらも一歩踏み込んだ「結論」となり、自分の熱き思いを語る「締め」となります。ですから、テーマに正対し、論を展開する方針を決めるのが「序論」です。ぶれない論を転じるためにはとても重要です。

一度では、要領が掴めないかもしれませんが、書くことで、教育ビジョン等への理解が深まり、自分の教育観が深掘りされていきます。これが面接での要となります。頑張ってください。

12月のTRY

自分の志望する校種の各学年で身に付けさせたい力は何ですか。

あなたが担任となり最初のHRでの所信表明です。単語でまとめましょう。